

臨床研究「当院でのクローン病症例における手術成績の検討」
についての情報公開

クローン病は原因不明の難治性の炎症性疾患であり、いまだに根治治療が確立されておらず、内科治療を継続しつつ腸管狭窄や膿瘍形成など合併症が生じた際には外科治療を行って治療しています。経過中に頻回の手術治療が行われることもあり、残存腸管が短くなり水分栄養吸収に支障をきたす短腸症候群を起こしてしまう場合もあります。また、近年新規治療薬として使用されることが増えている生物学的製剤使用が手術治療に及ぼす影響などまだ解明されていない事からもあり、課題もまだ多くあります。当院でのクローン病における手術成績および術後経過などの諸問題について検討する観察研究を計画しました。

研究対象期間：2007 年～2021 年

研究対象：上記期間に東北労災病院大腸肛門外科で手術を受けたクローン病患者

方法：当院でのクローン病症例における手術成績について診療録を調査し、retrospective に検討します。解析を行う際には氏名や手術日などの個人を同定できるデータは削除した形で行い、特定の患者さんに直接の不利益がもたらされることはないよう最大限の配慮を行います。

なお、研究に関するお問い合わせ、ご意見、研究協力拒否等のご要望につきましては、研究代表者までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

研究代表者：

独立行政法人労働者健康安全機構 東北労災病院

大腸肛門外科 羽根田 祥

TEL 022-275-1111, FAX 022-275-7541

〒981-8563 仙台市青葉区台原4丁目3-21